

平成27年度 自衛消防訓練(震災対応訓練)の振り返り

◎:共通 ○:検証会結果
・:訓練アンケート結果

Keep(継続したいこと、良かったこと)	Problem(問題点、不満)	Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)
<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎事前講習会が良かった(T1, T2, T3) ○建物被害判定の事前講習が本番で大変有益(必須)だった(T1, T2, T3) ○当日の振り返り作業 ◎役割がはつきりしていた ・実際に災害が起きた時のそれぞれの役割について確認ができた ○資料、訓練フロー、役割分担等訓練時の行動がしやすかった ・本部隊、地区隊が連携することがビル内被害の把握に大切だと理解できた ○訓練項目が明確で判りやすい ○情報量が昨年より少なかったのでやりやすかった ・訓練のやり方・会場設定 ・火災よりも、建物被害チェックや救護活動に力を置いた訓練(T8) ・複数の階をまたいで訓練が行われていた ・訓練・講習会で必要な言動を学べたため被災に活かせる判断力がついた(T1, T2, T3) <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎隊長からの指示伝達できていた ○隊長が同じ会社の人なので心強かった(一人参加は不安) ・班の属性に縛られずに、手が足りていない活動に随時人を割り振ることができた(T21) ・地震災害時の応急救護の対応が大変であることがわかった(T8) ・階段を使っての傷病者搬送(T8) ・速やかに火災を発見し、初期消火で火災の延焼を防げた ・ホワイトボードへの記入が自分で思っていたよりは出来た ○傷病者役がリアルだった ○本部隊の進行方法が若干見えてきて参考となった ◎地区隊の動きが理解できた ◎各自が積極的に動くことが大事 ◎訓練の必要性を理解できた ・知識ゼロでの初参加だったので、新たな経験として役立つ ・実践的な内容で様々な判断や気づきを与えるきっかけとなった ・初めて顔を合わせた人同士が訓練を行い、異なった視点での意見が聞ける ・訓練の練度を上げることは地域の体制作りの上で大変意義のある活動である <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ・資料が良く作成されていたため、動きが取りやすかった(T29) ◎活動フローチャート ○状況付与カードが程良く現場を混乱させていた ◎傷病者観察記録シートが使いやすい、フォーマットが良かった(T27) ・傷病者情報一覧 ◎タブレットによる被害状況の情報共有 ・iPadのツールが昨年よりスムーズになっていた 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○各災害事象の対応優先順位(T9) ○初期消火班として役割が終わった後の動きが不明瞭 ○事前説明では、口頭説明ではなく、通して実際に訓練をやりたい(T12) ○応急救護班内の役割分担が必要と感じた ○発災時に建築専門家が駆け付けて来れるのか疑問(T15) ○訓練の流れに不自然な点があった ○各ビルで保有している資機材を使った訓練ではない(T5) ・全ての講習会に参加することは非常に難しい(T4) ・本部隊と地区隊がもっと機能的に連携して訓練ができると良かった ・ストーリー訓練だとしても先が読めてしまい、形式的になりやすい(T16) ・当日の自分の役割がもう少し早く決まると事前講習会も選択しやすい ・テナントが2つの想定だったが、大規模ビルだった場合、同じ行動ができるか不安 ・備品や段取りが無かったり、スムーズでない点があった <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○事前に講習を受けた内容があまり活かせなかった(T1~T3) ○傷病者を放置している状況があった(T18) ◎安全防護班が活動(建物被害確認)に追われ、全体的な状況の把握が困難(T19, T20) ◎実際は輻輳する情報のトリアージが難しいと思った(T5, T7) ○何をすれば良いかはわかったが何のためにかがわからなかった ○自分の役割が良く把握できなかった ○リーダーの指示が長く、訓練が中ダレしやすい(T13, T24, T25) ・応急救護所では傷病者が少ないうちは対応が容易だったが、一斉に来られた時に動きが煩雑となった ・手の空く時間が多く緊張感がやや薄れた(T11) ・あまり負荷の無い想定であり、もう少し切迫感があれば良かった(T11) ・何をしていたか分からない場面があった ・火災時の防災センターへの連絡を忘れた ・地区隊であったため、本部隊の動きがほとんどわからなかった ・傷病者搬送中に三角巾がずれたまま続けていた ・応急手当の時に戸惑った、なんとなくの知識と実際に手を動かすのは違う ・どのような言葉(セリフ)を言うのか不安だったので、見本が事前に欲しかった(T17) ・いつまで傷病者役を演じていけばいいのかわからなかった ・建物被害確認は急を要する1回目だけで十分、2回目の調査は数日後で良い(T15) ・傷病者対応や建物被害確認は、実際に災害発生時にそのとおりできるかわからない ・建物被害の確認方法 <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎傷病者観察記録シートがあまり活用できなかった(T26) ◎傷病者観察記録シートの使用方法が良くわからなかった(T27) ○チェックシート等の書き方が難しく、間違えた(T28) ◎iPadのデータが重く送信に難あり ○iPadの建物被害の記録を複数回行ったが、都度写真が更新され、比較不可 ○三角巾等のグッズを全く使えていなかった ○建物判定ツールの操作に習熟するには数回の事前訓練が必要(T1, T15) 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○事前講習を充実させる(K1, K2, K13, P40) ◎事前訓練の回数を増やし一通り経験できるようにする(K1, K2, K13) ○事前講習参加を必須とする(K1, K2, K13) ・講習会の内容を簡素化し、1日の講習カリキュラムにする(P8) ○ビルの実態に応じた(近づけた)訓練の実施(P7, P17) ○訓練を基本編と応用編に分け、前後半で実施する ◎情報トリアージを訓練に取り入れる(P17) ○応急救護を共通認識に(K11) ○災害時の基本的な指針を周知(P1) ○訓練の位置づけを明確にする。初心者向け? 中級? 上級? ○訓練レベルの向上(P22, P23) ○事前説明会で説明より実際の動きを演習し、各ツールの説明も行う(P3) ○リーダーは重要なポジションのため、個別指導を行う(P20) ・訓練し、振り返りを行い、次に活かすことを継続して繰り返す ・建物の被害判定の改良(P5, P31, P40) ・ブラインド訓練の検討(P10) ・お手本を見てから訓練を実践する(P29) <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○傷病者投入のタイミング再考(P15) ○地区隊内の情報共有(P16) ◎訓練の役割を変更する、複数の役割を実施する(P16) ○班ごとで分担しすぎない(K16) ◎班内の役割分担を事前に決めておく ○各班の状況を随時まとめる ○リーダーは指示を短く(P20) ◎リーダーと各班長が細かく打ち合わせしておく(P20) <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○傷病者観察記録シート、記載内容の追加(P34) ○観察シートはもう少し簡単に(項目少なく)(P35) ○チェックシートを分かりやすくする(P36) ○各班の各行動・各役割を解説した資料を作る(A4で2枚程度)(K30)

平成27年度 医療救護訓練の振り返り

◎:共通 ○:検証会結果
・:訓練アンケート結果

Keep(継続したいこと、良かったこと)	Problem(問題点、不満)	Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)
<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎現実感のある訓練(T5) ・傷病者のケガのレベル分けをしたうえで訓練 ○1回目、2回目にわけて実施し、振り返りを2回目に生かした事 ・トリアージの重症・軽症のスペースがパーティションで区画されていて良かった ・二人一組で評価しあう点 ○Triage・Treatmentについて、災害医療研修会が役立った(T8) <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○トリアージ、フリーフィンガ、3名で行動(T9) ○メンバー間でしっかり声をかけあっていた ○訓練を良い意味で楽しむことができていた ○しっかりフリーフィンガをして仕事分担を確認する(T9, T17) ○責任者が動かなかったこと ○経験者が多数いたことで、初参加でもスムーズに行うことができた ・普段経験できないことをすることができ、災害について見直すことができた ・実際に体を動かして搬送などを経験できた ・全員が真剣に取り組んでいた ・傷病者役を行うことで、現場の傷病者の気持ちを感じることができた(T28) ・傷病者の臨場感 ・医療関係の動きを知ることができた ・7人のチームが協力しあって、知識や経験が無い中でもリーダー中心に役割をこなせた(応急救護班) ・担架の取り扱いについて、講習内容をそのまま活用できた <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○リーダーフリーフィンガ用のアクションカードが有効だった(T29, T9) 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○被災者と医療救護班、応急救護班の配分(T13) ○フリーフィンガが長い ○医療救護班の人数が少ない(T22) ○各メンバーの配置位置がわかりずらかった(T2) ○軽症者の対応をどうするか(放置するのも苦痛)(T4) ○区切られた部屋で視野が悪く、コントロール不良だった。緑の人が自由に動き回った(T2, T4) ○救護所内のレイアウトについて、十分検討できなかった ○区職員が来るまでの間の役割・ルールが必要(T10) ○役割分担者は氏名ではなく、色・番号化したい(T14) ・実際の災害時に多数の負傷者が発生した場合、どこに集まりどう対応するのか(T3, T15) ・実際の災害が発生した時はどのような組織づくりがされるのか(T3) ・訓練全体のことがわかりにくい(T7, T16) <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○トリアージの際に先生(リーダー)がいなかった。(T1) ○救護での3人1組の命令・指示がスムーズでない(T21) ○要救護者の演技に救護側が圧倒されて、適切な声かけができていなかった(T24) ○患者搬送の指示、急ぐ時の方法 ○リーダーとして、搬送順位の決定方法を明示できなかった(T6) ○時間が空いたときは応援か?待機なのか ○時間が足りなかった ○医療救護班の連携、経験量の差(T13, T17) ○忙しくなると情報が入りにくくなる(T18, T20) ○救護所内で症状に変化がある方への対応がスムーズにできなかった(T19) ○トリアージ後、時間を持って余した(傷病者役)(T4, T25) ○傷病者の入は把握できたが、出はわからなかった(T12) ○リーダー指示があるまで、自分から行動することができなかった(T23) ○搬送するのに思ったより時間がかかった ・傷病者としての演技が足りなかったのもあるが、医療者側の傷病者観察が少なかった ・応急救護班の対応が不十分なところもあった(T26) ・真剣に取り組む方が多かったため、一部の対応の悪さが目立った ・評価者はできないと思った <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ・アクションカードを見る余裕がなかった(T29) 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○リーダーが構成員の行動を把握できるシステムにする(P13) ○救護所を見通せるように壁を作らないような環境にする(P4, P6) ○救護所の立ち上げについて、ある程度マニュアル化する(P10, P11) ○緑をボランティアに勧誘する工夫(P5, P6, P23) ○リアルな医療救護所として、責任(役割)の明確化(K1) ○リーダー講習(P17) ○訓練を増やす、例えば図上訓練なども(P12) ○災害医療講習会を続ける(ブラッシュアップ)(K6) ○訓練含め、アクションカード、トリアージ、フリーフィンガは続ける(K7, K10, K21) ○救護所にも新宿ルールが必要(P8) ○行政=新宿区ではなく、東京都の協力も求めていく ○傷病者の出入口を同一にする(P24) ○役割分担の明確化。女性、高齢者・・・(P1, P20) ○予め役割が明記されたベスト(チョッキ)を用意する(P9) ・実際の時にどう行動し、どうやって命令系統を作り、どうやって集まる場所を知るか、そのような課題がもっと広く伝わるような仕組みを検討する(P10) ・訓練全体で関連性を持たせて一体となって行う(P12) <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○フリーフィンガで個人能力の確認(K10, P20) ○まずは報告(P21) ○医療者が少ないとき各エリアに事務担当者を置く(P22) ○連絡方法、常に連絡確認(P21) ○3人グループは原則としてキープし、脱退、他への移動はリーダーに逐一報告する(P14) ○環境が悪ければ人数を増やすか環境を変える(場所の設定)(P3) ○リーダーと各班の連携を確実に(P25) ○傷病者への傾聴技術を上げる(事前誘導)(P15) ○傷病者役だけでなく救助者側も体験する訓練(P23) ○搬送だけでなく傷病者の手当ての経験ができる時間が必要だと思った(P28) ○日常の物を利用してのケガの手当ての仕方など ・他の防災訓練を行った際も傷病者役を演じる機会があると良い(K16) <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○アクションカードの活用(K21, P31)

平成27年度 西口現地本部訓練の振り返り

◎:共通 ○:検証会結果
 ・:訓練アンケート結果

Keep(継続したいこと、良かったこと)	Problem(問題点、不満)	Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)
<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎個々のビルにとって有益な取り組み(T2) ○訓練は継続実施が大切(T2) ◎滞留者などの情報は必要であり、今回のように地図上のプロットがあると分かりやすい、地図を用いることの可能性を感じた ◎滞留者受入、大量の歩行者流入状況把握など協議会ならではの取り組み ◎エリア内の事業者同士の合同運営、相互の情報提供 ◎帰宅困難者向けの情報提供はありがたい ○ボランティアの活用、効果大 ○地域全体で情報共有ができれば混乱は縮小できる ・各ビルのローカルな情報を複数のビルで連携することで数千人規模の帰宅困難者で受け入れられる、運営の仕方によって有効になりうる ・新宿西口地区に特化した情報収集と発信は有効に機能する ・まずは管理しているビルの状況を把握しなければならないが、地域活動も考えていかなければならない ・平時の事業活動と異なる組織なので、本番とは別に体制や役割について意識合わせをする機会は有用 <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎情報の共有化、ボードの活用など ○情報の変化が分かったこと(例:避難場所の増加) ○実践的な内容で様々な気づきあり ・事前想定や準備があまりできていなかった割には円滑に行えた ・事前説明会、訓練前説明で事前に学べたことが良かった ・役割分担の必要性が理解できた ・初めて訓練に参加し、助け合うことの重要性を強く感じた ・西口現地本部の意味が意志決定、ボランティア・物資派遣等でわかった ・一枚の紙を回す形は伝言ゲームの抜け漏れ防止として有効 ・重要な情報だけを伝えられた ・対応状況が分かるように記録することの重要性を再確認した ・情報提供の重要さがわかった ・同時多発的に発生する多量の情報を処理することの難しさを改めて感じた(T5) ・対策本部は非常に混乱する場ということが分かった ・前半より後半のほうが情報の処理がスムーズに行えた 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○休日夜間の場合の本部運営(T1) ○現地本部の役割・権限(T3, T14) ○全体像の把握(広域の情報、ラジオ等) ○実際の大地震で誰が災対本部が立ち上げるのか、人員が集まるのか(T7, T8, T9, T15) ○役割ごとの動線確保 ・ビル名や建物名を明確にして欲しい ・訓練のため、ボランティアの派遣先がない等、想像がつかなかった ・現実の場合、どこに行けば受入可能施設の情報かわかるのか <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎情報が多い、集約情報をどう取捨選択し整理・共有するか課題(T4, T17) ◎情報の更新管理、人手不足で情報集約されたか分からないまま(T4, T17) ◎他班との連携・協力、誰が何をしているのか分からない ○役割分担の決め方をどうするか ○情報の信憑性(誰からの情報?鮮度)(T13) ○情報伝達の困難性 ・必要・不必要の判断が難しく、必要性の薄い情報も記載していた(T4, T17) ・始まってから流れが見えた所があり、経験者へ確認しながら行った ・多くのビルの受入可能人数の集約を暗算で対応した(T25) ・実際のせわしない感じが体験できて良かったが、作業になってしまった ・実施は出来たが、全てシナリオを見ながらだった ・自分の役割以外の班についてはふりかえりのみの内容を聞いたので、西口現地本部すべての役割を把握できていない ・欲しい情報がすぐ貰えずたらい回しにされた。 ・ホワイトボード上ではさばっていたが、本部からの情報を伝達する行動のイメージができなかった ・一件に対して複数人で対応せず、効率の良さを求めるべき ・情報を得るのに必死で情報発信があまり出来なかった ・情報を流してばかりで分からないままになってしまうことは不安 ・発信後の対応(情報を受けた人の対応)が気になった <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○情報の発信に多くのツールが必要(T6) ○電源の確保 ○地図の使い方、書き方のルール(システムの活用) ・伝達ツール・情報発信手段が少ない、今回は行政無線に限られていた(T21, T23) ・情報発信の方に向けてモニターの表示をしたが円滑にいかないことがあった ・無線が輻輳して発信が難しい状況だった ・システム情報の登録がスムーズにいかず情報伝達のタイミングが難しかった ・ボードマーカーで地図上に文字を記入するのは大変(マークには適している) 	<p>【計画・運用】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎休日夜間の西口本部要員の確保(P1) ○定期的な訓練を継続して実施する(K1, K2) ○災対本部の権限の明確化、ルールをまとめて全員で共有を図る(P2) ○情報整理のルールを作成する(マニュアルやキット化)(P9, P10, P15) ○直後期に本部でやらねばならないことを明確にする(K25) ○設置の下準備(色々揃えておくとか大分違う)(P27) ○平時から利用できる体制の構築(P4) ○現地本部の常設(人員確保、場所確保)(P4) ○本部の設置プロセスをシンプルにする(P4) ○警備会社間のネットワーク ○隣のビルの情報は欲しい ○地域・ローカル情報のセレクト→情報提供者の事前指定 ○信頼のおける情報源とのホットライン(P13) ・どこまでが西口現地本部が負うところなのかもう少し詰める必要がある(P2) ・企業から半強制的に人を出すルールの検討(P4) ・三つの訓練がローテーションで経験できれば良い <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ◎不必要な情報のカット、伝達内容を整理しコンパクトに伝達(P9, P10, P15) ○本部員による(足での)情報収集 ○災害情報の経過情報 ・本部を運営する中で決められたアウトプットがある程度用意されているので、その情報を常に意識して訓練を行う <p>【ツール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ○資機材の充実、区への予算化希望(P30) ○最重要情報の共有化にマイク音声やチャイム音等を活用する ○伝達ツールにスマホの活用を試みる(P30) ○情報の一覧性、大地図に情報を記載しスマホで情報を共有する ・電卓の用意(P17)